

令和7年度 山梨県立富士北稜高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	富士北麓地域唯一の総合学科高校として、基礎的・基本的な学力を身につけるとともに、主体的に学力や課題解決力、専門的知識・技術を身につけ、地域を支え、動かし、持続可能な未来を創る人材を育成する。
-----------	---

山梨県立富士北稜高等学校校長 野澤 俊英

本年度の重点目標

本年度の重点目標	1 「Hokuryo 魅力化プロジェクト」に沿って、北稜高校の教育活動をさらに充実させ北稜高校の魅力を外部に向けて今まで以上に効果的に発信していく。また、生徒たちが主体的に行動し、北稜高校の魅力を高めるための取り組みを推進していく。
	2 生徒主体の授業への転換を図る。
	3 地域への理解や愛着を育むため、地域を舞台とした実践的・体験的な課題解決型学習を実践する。
	4 地域の産業、企業、上級学校をよく知り、将来納得のいく進路決定ができるキャリア教育を実践する。
	5 生徒が目標設定、企画、運営、判断する主体的な教育活動を実践し、結果より過程に注目する。
	6 全ての教育活動を通して、ルールを守り、人間として正しく生きようとする規範意識を育てる。

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒の基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業力向上	・思考力・判断力・表現力などを育成する授業の実施 ・基礎学力定着に向けた授業の実施 ・授業改善に向けた相互授業参観 ・生徒の学習改善と教員の授業改善につながる観点別評価の実施	公開授業 研究授業 授業評価アンケート
		・学びの基礎診断の実施と結果の活用 ・スモールテストの実施(国・数) ・論述問題を導入した定期試験 ・家庭学習習慣の確立 ・朝読書の実施	学びの基礎診断結果分析 スモールテスト成績分析 学校評価アンケート 朝読書アンケート
2	地域や保護者への情報発信と生徒と地域との交流活動の促進	・「総合的な探究の時間」や総合ビジネス系列における実践と運動した連携活動の促進 ・在宅訪問や地域ボランティア活動の推進 ・学校間交流活動の推進	学校評価アンケート
		・公開授業・公開行事の促進	学校評価アンケート
		・学校ホームページの充実 ・学校便り・年次便りの発行	ホームページアクセス状況 学校評価アンケート
3	キャリア教育と進路指導の充実	・「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」の充実 ・インターンシップの充実 ・企業・大学との連携 ・資格取得の増進	学校評価アンケート 資格取得結果
		・進路相談部と各系列・年次との連携の強化 ・個別の進路指導の強化 ・進路指導と運動した課題研究への取り組み	進路検討会 進路実績 学校評価アンケート
4	特別活動の活性化	・全員入部制(1年次生)の継続と2・3年次生への部活動継続の働きかけ ・生徒が主体となった部及び委員会の企画運営と具体的目標・活動計画の設定	部活動調査(入部率等)
		・教員数に対応した適正な顧問の配置や地域人材を活用し業務改善を図る	目標達成度(活動成果)
5	基本的生活習慣と規範意識の確立	・挨拶、服装、言葉遣い、清掃等の指導の徹底	挨拶運動 服装点検 清掃点検 学校評価アンケート
		・生命や人権、社会的規範を尊重する態度の育成 規範意識を涵養する講演会等の開催	生徒の諸活動状況 生徒感想文等 学校評価アンケート

年度末評価(2月1日現在)		
自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
・よのなか科・エナジードを中心に、生徒の意見を取り入れた授業づくりが定着し始め、主体的な学びの姿が見られるようになった。 ・探究的な活動が増え、思考力・判断力・表現力を意識した課題設定を行う教員が増加した。 ・家庭学習の習慣化については、生徒アンケートの結果によると肯定的な評価が前年比29.6%アップしており、学習への取り組み姿勢に大きな改善が見られた。「魅力化プロジェクト」として取り組んでいる基礎学力講座等の取組の成果と考えられる。 ・朝読書については、生徒評価で肯定的な回答が8割以上を占めている。 ・教科間で取り組みの温度差が残り、基礎学力の底上げにむけた継続的なスモールテスト活用や基礎診断結果の授業改善への反映が課題である。	B	・教科間の取組の温度差を縮め、基礎学力定着に向けた取組を全校で均質化していく必要がある。 ・基礎診断や観点別評価の結果を授業改善へ効果的に反映していくため、教科ごとの分析力向上と校内共有を強化していく。 ・論述問題を導入した評価の取組をさらに広げ、全教科で思考力・判断力・表現力を育成していく評価体系へ発展させていく。 ・家庭学習の習慣化をより確実に進めていくため、学習計画づくりや振り返りの指導を充実させていくことが課題である。 ・相互授業参観を授業改善につなげる実践交流にしていいため、参観テーマの明確化や振り返りの仕組みづくりを整えていく。
・PTAだより・ホームページ・学校便りなど複数媒体の活用により、情報発信の量と頻度は向上した。 ・ホームページ更新の習慣化と更新頻度の飛躍的な向上により、本校の教育活動等リアルタイムで外部に発信できる体制が整備された。 ・テレビ・新聞などのメディアにも「魅力化プロジェクト」の取組をはじめ本校の活動が多く取り上げられ、学校の取組を広く社会へ発信していく機会が増えた。 ・公開行事も一定数実施でき、地域からの学校理解が進んだ。 ・発信内容において「学校の強み」や「育てたい生徒像」が十分に統一されておらず、メッセージが散発的になっている面がある。	B	・地域連携を全校で体系化し、計画的に広げていく。 ・在宅訪問・ボランティアを年間計画化し、継続性を高める。 ・学校間交流の目的と成果を明確化し、学習効果を高める。 ・公開授業・行事の周知方法等を見直し、参加を促していく工夫を強化する。 ・情報発信の統一性を高め、「強み」と「育てたい生徒像」を一貫させる。 ・メディア対応の校内体制を整備し、計画的・継続的に広報活動を推進する。 ・生徒会本部主体によるSNSを活用した広報戦略を展開する。
・生徒の主体的選択を支える活動(面談・よのなか科の活動・探究活動)が広がり、自己理解・進路意識の芽生えが見られた。 ・系列体験授業なども一定の効果があり、進路を見据えた学びが機能し始めている。 ・系列選択や進路指導に関する情報が、系列・担任間で十分共有されていないとの声もあり、校内連携の仕組みが求められる。 ・進路相談部と教科・系列の連携も強化する必要があり、生徒個々の進路希望・学力・適性を踏まえた指導体制の構築が必要である。 ・「魅力化プロジェクト」の一つとして今年度からスタートした進学特別講座は、地元塾との連携が円滑に進み、教員の働き方改革にも寄与し、生徒にとっても大きな成果をもたらした。	B	・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」と進路指導との運動をさらに明確化し、生徒の自己理解を深めていく。 ・企業・大学との連携を計画的に拡大し、進路に直結した学びの機会を増やしていく。 ・資格取得の計画性を高め、生徒の進路希望に応じた資格取得を促していく体制を整える。 ・系列・担任・進路相談部の情報共有を改善し、生徒の選択に必要な情報をタイムリーに届けていく。 ・課題研究と進路指導を運動させ、探究の成果が進路選択に生かされていくように指導体制を整えていく。
・行事運営手順の見直しにより、教員の負担軽減と効率化を両立し、全体としてスムーズな運営が可能となった。 ・学園祭や体育祭では、生徒が企画段階から主体的に取り組み、生徒主導の行事づくりが実現したことで、生徒の満足度も大きく向上した。 ・多くの部(選手)が上位大会(関東・全国)に出場し、部活動の成果が学校の士気向上にもつながった。 ・環境安全委員会によるSDGs実現プロジェクトにおいて、校内全体の電気使用料金が12月時点で前年比約73万円減になるなど、委員会活動でも生徒が主体となってアイデアを出し合うことで大きな成果をあげた。 ・教員間の連携不足により一部の行事で情報共有が遅れる場面もあり、改善の余地が残る。	B	・行事準備での情報共有を改善し、運営を円滑にしていく。 ・生徒主体の行事づくりを広げ、企画段階から関わる生徒を増やしていく。 ・委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校づくりに参加していく機会を増やしていく。 ・全員入部制を生かし、2・3年次の部活動継続を促していく。 ・顧問負担を分散するため、適正配置と地域人材の活用を進める。 ・部活動・委員会の年間計画を明確にし、生徒と教職員で共有する。
・生徒支援委員会・ケース会議を活用し、心身に課題を抱える生徒の情報共有が確実に行われた。 ・朝の登校指導を全教員で実施し、挨拶や服装の確認を継続したことで、服装の乱れが改善され基本的な生活習慣の定着が進んだ。また、数年前に比べて、朝の遅刻者数が激減した。 ・SDGsへの取組が進み、生徒の環境に対する意識が高まった。 ・一方で、SNSの利用に伴う情報モラルの課題は、なお対応を進めていく必要がある。 ・生活習慣や基本的な規範意識の定着には引き続き課題が残っている。	B	・生活習慣の定着をさらに進めるため、挨拶・服装・言葉遣いなどの基本行動の確認を継続していく。 ・情報モラルの向上に向けて、SNSの適切な利用についての指導や啓発の機会を充実させていく。 ・SDGsに関する取組を継続し、生徒の環境意識を日常の行動につなげていく活動を広げていく。 ・生活習慣や規範意識に課題を抱える生徒への支援を充実させ、個々の状況に応じた対応を行っていく。 ・生徒支援委員会・ケース会議の連携を強化し、組織的な生徒支援を継続していく必要がある。

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月9日)	
評価	意見・要望等
3.5	・「よのなか科」に参加して非常に良かった。教員の負担が大きいとのアンケート結果があるため、負担軽減を図りつつ継続してほしい。 ・朝読書は生徒の約8割が評価しており、スマホ利用が増える中でも授業へ落ち着いて向かえる良い取組として継続を。 ・基礎学力講座・進学特別講座は保護者としてありがたい。継続を希望。 ・基礎学力講座のレベル別(基礎／応用)展開などはどうか。 ・生徒のニーズや進学希望に応じた選択講座の拡充(例:美容系希望者が参加できる地元企業との連携型講座など)。 ・都留文科大学への推薦合格等の実績と、魅力度UP活動や「よのなか科」との関連性を分析し、進路選択・受験への効果を検証してほしい。 ・「よのなか科」等の学習活動は、アンケート数値に加え、参加生徒・教員の感想など質的データも提示すると評価しやすい。 ・短期間での結果に一喜一憂せず、良い取組は継続し、改善点は地道に修正していく姿勢が学校評価につながる。
4	・校長の広報活動が良い方向に作用し外部からも多くの発信を確認できた。 ・来年度に向けて検討されている「生徒主体の SNS 発信」は評価でき、中学生に直接魅力を伝える観点からも有効な手段となり得る。 ・学校としてのメディア活用は良い取組であり、今後も継続を。 ・「Hokuryo魅力化プロジェクト」の発信を「教員主体」から「生徒主体」へシフトし、地域へ生徒の声と活動を直接届けることを提案したい。 ・「Hokuryo魅力化プロジェクト」等における生徒の頑張りが伝わる具体例(例:どんな呼びかけをしたか／写真での可視化)を資料に加えてほしい。 ・中学生への出前授業など、地域・次学年へのアプローチを検討したらどうか。山中湖村教育長との連携の打診を検討を。
3.5	・地元企業では、富士北稜高校への高卒採用に対する期待が高まっており、地域産業を支える人材育成の観点からも注目されている。 ・系列学習と結び付けた地元企業との接点づくりを強化し、就職意識を高める(企業側の期待とマッチ)。 ・進学者のUターンサポート(卒業後の地元帰郷支援)を図る。 ・進学希望者に対する関心に応じた講座整備を進める。例として、美容系希望者には地元企業との連携により実践的な学習機会を提供する。 ・進路未決定の生徒に役立つプロジェクトを用意する。 ・「よのなか科」が進路選択や受験に与えるプラス効果を分析する。特に、魅力度向上の取組と進路決定や合格実績との関連を整理し、その教育的効果を明確にする。
3.6	・SDGs 活動で良い成果が見られ、生徒主体で取り組んだ点は特に素晴らしく非常に評価できる。 ・部活動が上位大会で活躍している点は素晴らしい、公立高校として様々な制約がある中でその成果として、特に高く評価できる。 ・外部指導者によりサポート体制をOB・OG中心に構築し、地域に残る若い世代が学校の応援団になる仕組みづくり。 ・スポーツ推薦の活用に加え、地元のスケート競技にかかわる人脈拡大は学校活性化に有効である。日本体育大学が富士吉田でスピードスケート練習を行っている状況を踏まえ、連携強化を検討したい。 ・省エネ(電気使用量の削減)の活動を継続させ、SDGsの環境保全を目指す取組として位置づけて推進していく。
3.5	・どの生徒も挨拶をしてくれる点が素晴らしい。 ・SNSトラブルを減らすための指導・声掛けを重視。 ・服装の乱れの改善・体育着着用導入を契機に更なる改善を。 ・登下校の安全指導(路面凍結等への注意喚起、保護者送迎が多い実情を踏まえつつ自転車・バイク通学者への指導徹底) ・制服のデザインは中学生の学校選択に影響する重要な要素であり、少子化による定員割れ防止の観点からも、検討の時期にきているのではないかと。(在校生からの意見聴取、キュロットスカート、プレザーやネクタイノリボンの色を明るくする等のデザイン見直しの検討を。)